

多彩に活躍する世界ナンバーワンパティシエ 辻口博啓さんに聞く

クラブ・ド・フランスインターナショナル杯、クラブ・ド・モンド等、世界大会での優勝始め数々の賞歴を持ち、「スイーツ界の神様」とも称される偉大なパティシエ・辻口博啓さんへのインタビューが実現しました。辻口さんの華やかな活動を支えるバックボーンに、eisu高校部伊藤奈緒が迫ります。

「目標を持つことで、今すべきことはこれだ、だから今はこれをしよう、という考え方ができるようにになった」

伊藤…辻口さんは今は世界を代表するパティシエでいらしゃいますか？ご実家は和菓子屋さんだったとお聞きしました。

辻口…そうですね。幼少の頃はドラ焼きやおまんじゅう作りを手伝っていましたよ。朝から晩まで厨房で必死に働く父や母の背中を見て、安心感を覚えながら毎日過ごしていました。自分も両親の後を継いでここで働くんだな、という実感を自然に持っていましたね。

伊藤…そんな辻口さんが洋菓子作りを目指されたきっかけは何だったんですか？

辻口…小3の時、友だちの誕生日で食べたショートケーキのおいしさに感動したことです。でも実は感動だけではありませんでした。悔しかったんです。友だちのお母さんに「辻口君の家ではこんなおいしいものは食べられないでしょ？」と言われたことが、それで「こういうおいしいものを自分で作ってみせる！」と心に決めたのがきっかけでした。

伊藤…なるほど！とても早い段階で人生の目標が決まったことになりませんか？

辻口…はい、もちろんいろいろ脱線もありました。でもいったん目標が決まると、長い人生の中で、若いうちにできることは限られている。この限られた時間を精いっぱい有効に使おう！という自覚が芽生えました。また将来こうしたい、というところから逆算して、今すべきことはこれだ、だから今はこれをしよう、という考え方ができるようになりました。

伊藤…辻口さんの活動はとても華やかに見えますが、そこに至るまでにはすごい努力をなさっているのでは？お若い頃はこういう暮らしぶりだったんですか？

辻口…18歳の時に実家の和菓子屋は倒産し、住む家がなくなくなりました。そこで洋菓子屋に住み込みで働いたんですが、初任給は月4万5千円！朝5時半に起き、夜12時までひたすら仕事。仕事の後は、朝の3時まで1日1つのテーマを設けて、ひとりでもデコレーションの練習をしていました。1日3時間も寝られないような生活が18歳から24歳くらいまで続きましたね。確かに大変でしたが、バカになって働く

eisu Interview



辻口博啓 Hironobu Tsujiguchi

クラブ・ド・モンドをはじめ世界大会に日本代表として出場し、数々の優勝経験を持つ。モンサンクレール(東京・自由が丘)をはじめ、コンセプトの異なる12ブランドを展開。「スイーツで人々に笑顔」をモットーに、各店舗の製造・運営の他、企業とのコラボレーションやプロデュース、講演や著書出版など積極的に活動。また、食育や教育などにも強い関心を持ち、2011年10月に SUPER SWEETS SCHOOL自由が丘校を、2012年4月には石川県で学校法人スーパースイーツ製菓専門学校が開校。一般社団法人日本スイーツ協会代表理事も務め、スイーツ検定など実施。スイーツ文化の更なる発展と向上に力を注いでいる。1967年石川県出身。 <http://www.super-sweets.jp/>

この大切さをカラダで学べましたよ。そして、普通の人が1日8時間働くところを、自分が16時間働けば、普通の人の2倍速く学べる。今ここでがんばっておけば絶対自分にとってプラスになる、今はその時期なんだ、だからがんばろう！と自分に言い聞かせていました。

「たとえすべてを失っても、自身の経験から力を得て立ち上がる。そういう自分が、あの時作られた」

伊藤…やはり華やかな活動の陰には壮絶な努力があったんですね！

辻口…わずかな月給からコツコツと貯めてき



レンタルするのは高かったので、アパートのトイレの大理石の床をビッカピカに磨き、そこで連日連夜、船の造形の練習をしました。大会前日にやつと厨房を借りて徹夜で船細工を制作、それで銀メダルを勝ち取りました！あのおカネがないとき、あのトイレで練習し、あの大会で銀メダルをとった！その時得た自信が、今の自分を作りました。これ以後、自分のスキルを認めたらうため数多くの大会にチャレンジしたけど、もう負ける気はしなくなりましたね。媚びた生き方をせず、たとえすべてを失っても、自分自身の経験から力を得て立ち上がる。そういう自分が、あの時作られたのだと思います。



伊藤奈緒 Nao Ito

三重県立津高校より関西学院大学卒業。2000年、自身も中1から高3まで6年間学んだeisuに入社。入社時は高校数学担当で採用されたが、高校英語に転身。生徒たちに責任を持って指導ができるよう必死の努力と工夫を重ね、入社3年で人気・実力ともeisu高校部No.1講師に。その後本当に生徒たちの学力を上げるには東進の方法論を用いたハイグッド指導が最善と信じ、熱意と努力を注いで現在の完成された指導スタイルを構築。その成功により日本全国の教育関係者の注目を集め、研修・指導にも腕をふるう。現在、eisu高校部取締役COO(最高執行責任者)。過去にはミス三重グラウンド・ミス松阪などの経歴も持つ、自称「美容研究家」。

伊藤…三重県菟野町でこの秋オープンする「アクア×イグニス」にも出店されるとお聞きしました！

辻口…三重県には食材といい、水や空気といい、素晴らしい素材と環境がそろっています。これら



「今のがんばりが、将来の自分を作る」

をベースにしていかにおいしいものを創造するか、チャレンジしたいがありますね。多くの方にぜひ喜んでほしいです！

伊藤…私もぜひ行かせていただきます！では最後に、読者の皆様にもメッセージをお願いします。

辻口…今、できることに全力を注いでがんばってください！今のがんばりが将来の自分を作るんです！

伊藤…辻口さんの話を聞いて、私自身、もっとやれる！もっとがんばれる！とやる気が湧いてきました。本当にありがとうございました！

今回のロケーション



今回のインタビューの舞台
eisu倶楽部 湯の山「本館」
鈴鹿山系の主峰である御在所岳の麓、湯の山温泉地内にあり、四季折々の美しい景観が楽しめるeisu倶楽部湯の山「本館」は、「仁心庵」「新館」とともに一大研修宿泊施設を構成しています。
<http://www.eisu.co.jp/eisuclub/yunoyama/>



三重における辻口さんの新しい舞台
複合リゾート施設「アクア×イグニス」
三重県菟野町・湯の山温泉の「片岡温泉」が、2012年10月23日に移転・再整備されて「癒し」と「食」をテーマにした新感覚複合リゾート施設「アクア×イグニス」として生まれ変わります。もちろん辻口博啓氏も出店します。 <http://aquaignis.jp/>